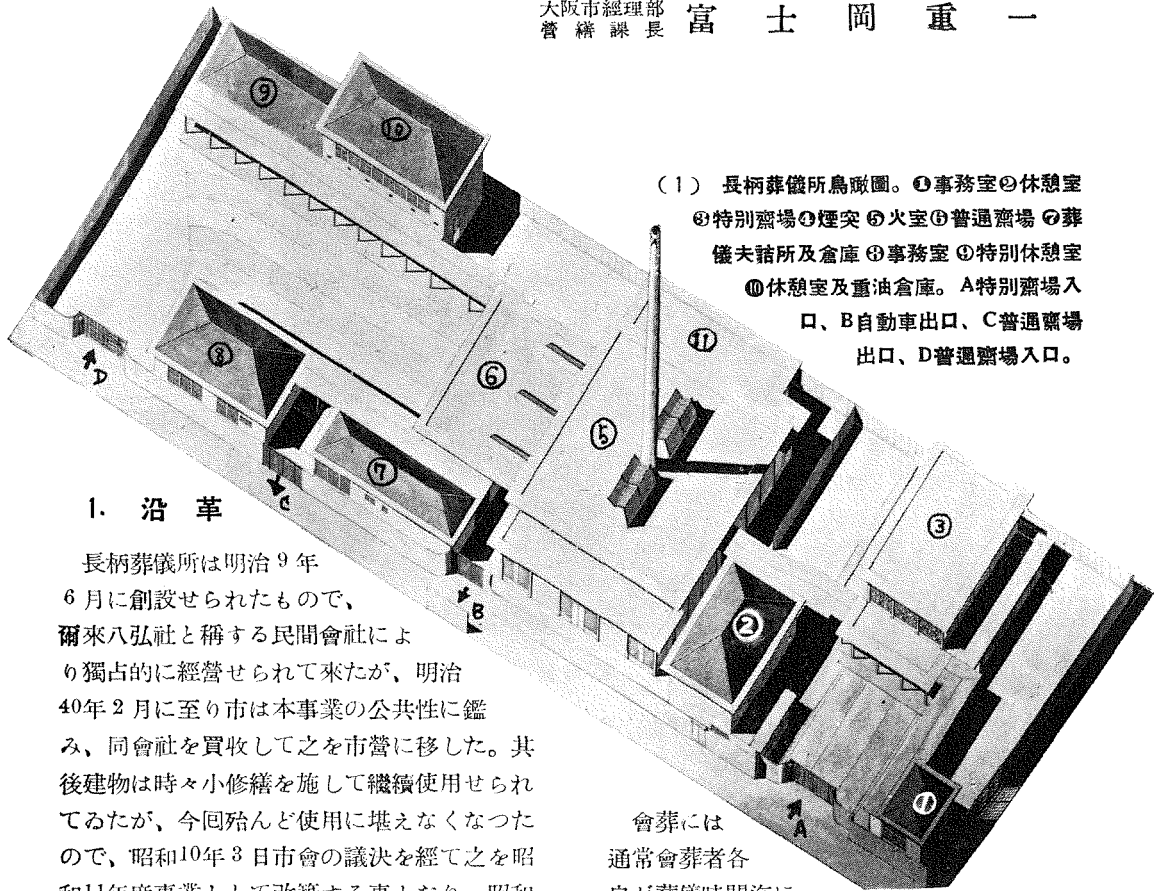


大阪市立長柄葬儀所改築工事

大阪市経理部 富士岡重一
管 轄 課 長



(1) 長柄葬儀所鳥瞰圖。①事務室②休憩室
③特別齋場④煙突⑤火室⑥普通齋場⑦葬
儀夫詰所及倉庫⑧事務室⑨特別休憩室
⑩休憩室及重油倉庫。A特別齋場入
口、B自動車出口、C普通齋場
出口、D普通齋場入口。

1. 沿革

長柄葬儀所は明治9年6月に創設せられたもので、爾來八弘社と稱する民間會社により獨占的に經營せられて來たが、明治40年2月に至り市は本事業の公共性に鑑み、同會社を買収して之を市營に移した。其後建物は時々小修繕を施して繼續使用せられてゐるが、今回殆んど使用に堪えなくなつたので、昭和10年3日市會の議決を経て之を昭和11年度事業として改築する事となり、昭和12年2月工事に着手し同年12月第一期工事たる敷地中央部に位する各建物を完成し、殘部を第二期工事として引續き施行中で、本年6月完成の豫定となつてゐる。

2. 事業概要

本葬儀所は火葬場に齋場を併設したもので使用者は多く葬儀業者を通じ豫め事務所に種別等級を記して使用の申込をして置く事になつてゐる。葬儀は到着順に従ひ豫め市の手で飾付せられた齋場に於て執行し、靈柩は齋壇から臺車によつて火葬爐に移送され、直ちに點火し約2時間で焼屍作業を終る。

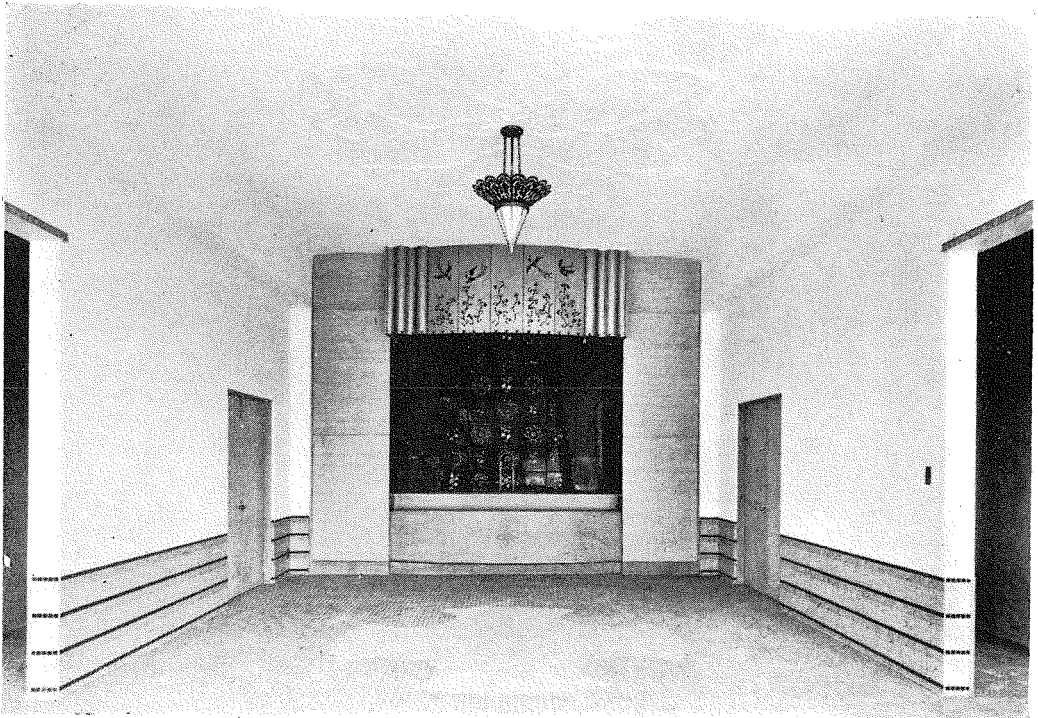
會葬には通常會葬者各自が葬儀時間迄に參集し一般休憩室又は特別有料休憩室で葬列の入場を待合すもので、一般會葬者の休憩室外に親族並に神官僧侶用の爲特に別室が設けられてゐる。特別齋場は本葬儀所獨得の設備にして會葬者約300名程度の葬儀に適し、2時間を單位として専用せしむる事になつてゐる。其他附屬設備として帳場、札場、葬儀夫詰所、倉庫等の設けがあり、火室内にはタンク室、石炭庫、屍體預室等の設備も附隨してゐる。屍體預室は火葬爐満員の場合又は死後24時間を經過してゐない者の屍體を安置するのである。

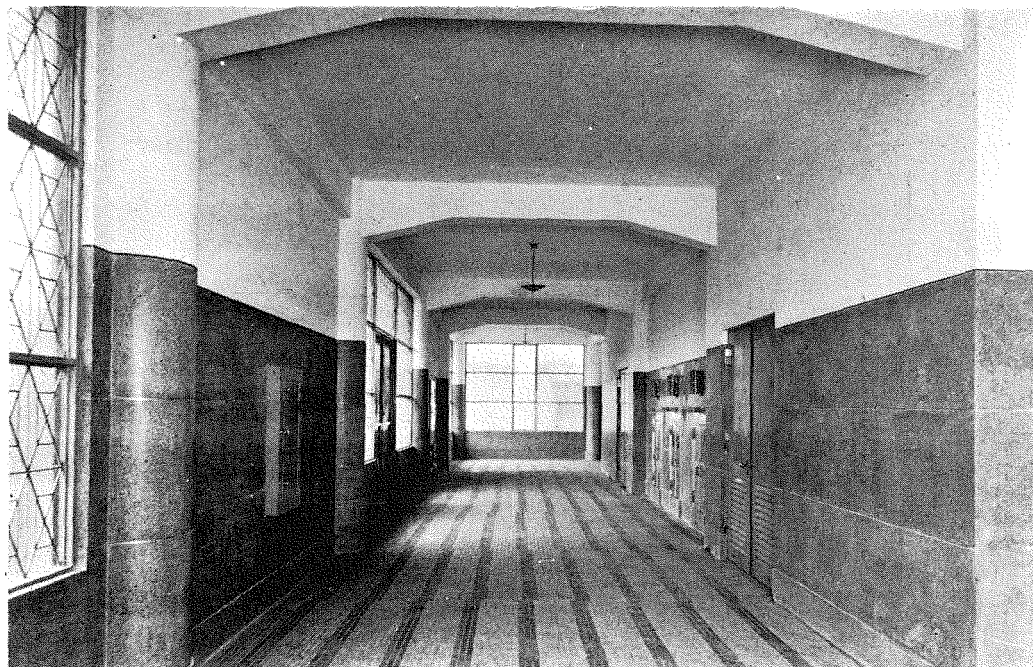
火葬設備の中樞を爲す火葬爐は三機式重油



(2) 普通齋場外觀。

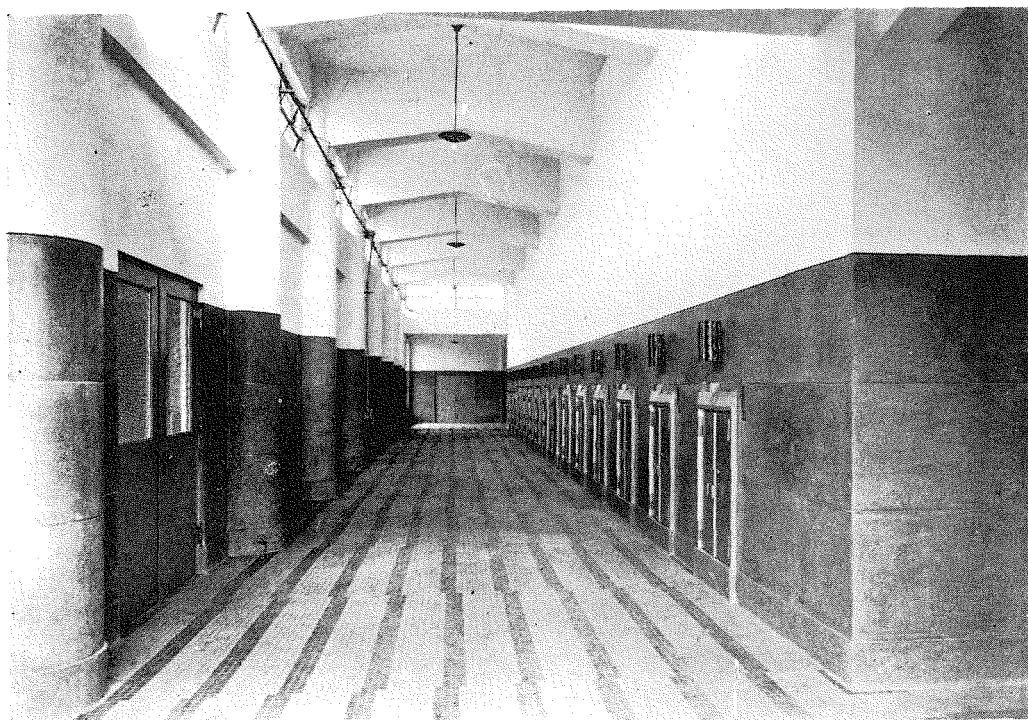
(3) 普通齋場內部。

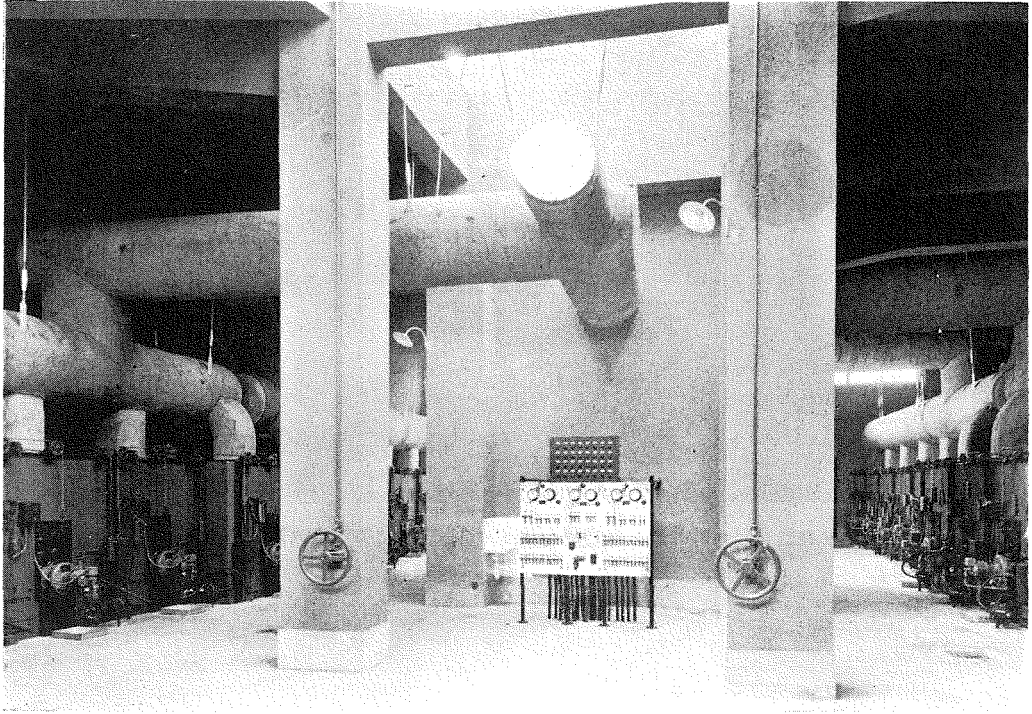




(4) 火室内の火爐扉の配列。

(5) 火室の廊下。





(6) 火 室 内 部 煙 道。

爐を採用し、各爐には1/4馬力のモーター及重油バーナーを装備して低壓空気を送り重油を微粒状態に於て噴射せしめ完全燃焼を行ふもので、焼屍時間は大人平均2時間、重油消費量15立である。尙豫備として薪炭爐をも併設してゐる。

3. 改築工事概要

所在地 大阪市東淀川区長柄中長通り2丁目
面 積 敷地1,691坪、建築面積2,747平方
72、延面積2,933平方445。

普通齋場 鐵筋コンクリート造平家建、高さ8米33、外部モルタル掻き落し仕上、屋根は陸屋根としアスファルト防水を施し一部ガラス屋根とした。床はモルタル又はタイル貼仕上、腰同様、天井はプラスター塗仕上である。

葬儀夫詰所 木造平家建瓦葺、高さ4米98、外部モルタル掻き落し仕上、床はモルタル

又は疊敷、腰及壁はプラスター又はベニヤ板張、天井テックス張である。

特別齋場 鐵筋コンクリート造平家建、高さ7米23、外部仕上は普通齋場に準じ、床はリグノイド一部タイル、壁及腰はプラスター塗仕上、天井テックス張である。

特別齋場事務室及札場 木造平家建瓦葺、高さ4米93、床は板張りの上リノリウム敷き、腰はアサノコート、壁はプラスター仕上、天井テックス張である。

特別休憩室及帳場 木造2階建瓦葺、高さ9米56、床はリグノイド一部タイル、2階床は板張又は疊敷、腰はアサノコート、2階は布張り。壁は1階プラスター、2階砂壁天井はプラスター又はテックス張。

火室 内部は床モルタル仕上。巾木高³⁰纏造モルタル塗、壁天井ともコルク吹付ペンキ塗仕上。廊下 床モザイクタイル、巾木テラゾー、(以下207頁へつゞく)